

◇塔寺・気多宮地区概要

当地区は、旧越後街道の宿場町として、又、心清水八幡神社及び、恵隆寺の門前町として、栄えてまいりました。当時の風情を残す街並みや、国・県指定の重要文化財及び社寺、仏閣が残っている地区であります。

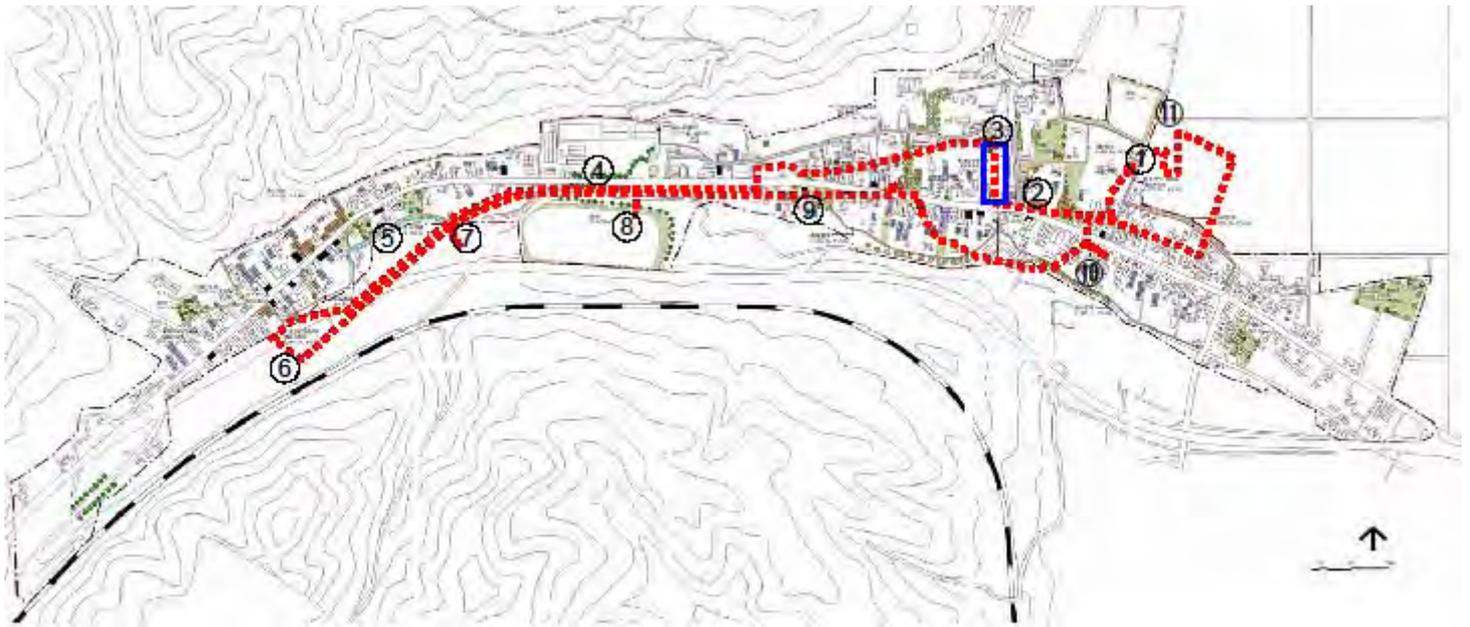
塔寺地区は、松原遺跡や大門遺跡に見られる縄文・弥生・平安・中世時代と続き、観音森古墳や経塚古墳の遺跡が見られる地区であります。

旧越後街道は、慶長の大地震(1611)により、勝負沢峠が、山崩れのため交通不能となり、急きょ鐘撞堂峠が開設されました。これにより、越後路本道となり、塔寺宿の最盛期を迎えることとなります。現在においても当時の屋号で各人をあらわしているところがあります。

気多宮地区は、越後街道の開設に伴い、宿駅が形成され、柳津街道(沼田街道)と、越後街道の分かれ道として追分石が、現存するところがあります。近代になりますと、明治15年から三方道路の整備として、現国道49号線の前身となる道路の整備がなされ、昭和3年には、国鉄只見線が開通し、交通体系は一変、越後街道の交通量は激減、当地区の商工業も同時に、衰微の一途をたどってまいりました。

近年、建替え等が進み、旧来の宿場町の面影を、急速に失いつつある街なみについて、地区住民の意識の高揚により、歴史的遺産や、地区の財産である住宅・土蔵の資源を活用した、景観の向上、快適・安全な道づくり等の、住環境の整備を図る目的で、平成12年度から街なみ環境整備事業に取り組んでまいりました。同時に、街なみ整備協議会の設立及び街づくり協定を締結しております。

◇まち歩き説明



△ (図-1)まちあるきルート

① 「立木観音堂及び立木観音」(集合場所)

国重要文化財に指定されており、観音堂は1190年台に建立され、慶長の大地震で被災し、1617年に大修理が行われました。お堂は、桁行5間、梁間4間、一重、寄棟造、茅葺で、四囲に切目縁を廻らせております。堂に安置されております、木造千手観音立像はケヤキの一木造で像高7.4m、総高8.5m余りの大きな観音様であります。

② 「茶わん塚地蔵尊」

茶わん塚地蔵尊が祭られている井戸は、今般、地区の方々が復活いたしました。懐かしいポンプ式井戸があります。

③ 「八幡神社」

中門の奥に、吉田松陰東北旅日記の記述があり、神社には、国重要文化財の塔寺八幡長帳があります。

この長帳には、1350年から1575年までの200余年間の出来事がつづられております。

町道八幡神社前通線は、石畳の街道をイメージし、透水舗装の道路として整備をしたところです。

(平成15～17年度)

④ 「土蔵」

この場所には修景整備で改築した土蔵があります。左が修景前で、改築後、右の写真となりました。



改修前



改修後

⑤ 「気多宮地区周辺」

宿場町の面影を残す格子戸や板塀の家々及び、土蔵が連続しております。街道の道幅は旧街道の道幅を残し、狭くなっております。

⑥ 「越後街道追分石」

県道山都線に出て下りますと、越後路と柳津路の追分け石があります。これは、小公園整備予定地から移設したものです。

⑦ 「ほたるの棲む水辺」

この広場は昨年度の事業で整備いたしました。

⑧ 「上の山堤」

会津磐梯山を望む場所で、今後の利活用を考えております。

⑨ 「小公園」

上の井戸があった場所で、湧水をイメージし、平成15年度に整備いたしました。

⑩ 「水無川環境整備」

水無川のほとりをくんだり、石垣の通りがあります。その先は地区の方々が、蛍の生息地として水環境整備を実施しております。

⑪ 「旧五十嵐家住宅」

旧五十嵐家住宅は、1729年の墨書が、発見され、会津平坦部の中堅層農家の典型として、国の重要

文化財の指定を受けました平成6年から8年にかけて解体移築を行い、現在に至っております。

県道のまちなみ・・・会津坂下町塔寺・気多宮屋号探しぶらりマップにあります看板が設置されております。これは、塔寺・気多宮地区街なみ整備協議会独自の事業として取り組み、おおくの屋号が表示されるようになりました。

◎問い合わせ **地域住宅計画推進協議会 事務局**

〒102-0071 東京都千代田富士見 2-14-36 FUJIMI WEST 2F

(財)ベターリビング 住まいづくり連携協力部 Tel 03-5211-0584 Fax 03-5211-3169